

VISTA 8 ユーザーレポート

日本テレビ放送網株式会社 様

VISTA 8

207号音声継車を更新、VISTA 8でシステムを構築



■車両以外のシステムをスチューダー・ジャパンが担当

日本テレビ放送網株式会社
技術統括局制作技術センター制作技術統括部
チーフテクニカルディレクター
山口 裕司



207号音声継車に求められる条件

以下にあげる基本方針を元に新207号音声継車（以下、207号車と略す）を製作しました。

1. 中継現場に快適な作業環境、居住性を提供できる音声継車であること。
2. デジタル放送時代の音声制作にふさわしい音声継車であること。
3. 最高の使い勝手と、最高の音質を備える音声継車であること。
4. 単に「5.1chサラウンド対応」と謳うだけではなく、数多くの5.1chサラウンド番組を手がける日本テレビが、5.1ch番組を作るための音声継車であること。

放送局の「飾り物」ではない、機能、性能を満たし、かつ「使える」音声継車を目指しました。

VISTA 8 採用の理由

- 207号車のシステムに求められる条件は、スタジオ設備のそれよりも格段に厳しいと言えるでしょう。移動中の振動、天候の変化による急激な温度、湿度の変化など、スタジオの調整室よりもはるかに過酷な条件にさらされる中、生放送、生中継の制作形態が多い中継番組制作では、システムダウンは絶対に許されません。音声の「質」はもちろん、207号車は国際イベントにおける複雑な信号配信なども担うため、そういった過酷な条件下でも、高い安定性と信頼性が求められます。今回、VISTAをシステムの核に選定したのは、
1. 日本国内はもちろんのこと、全世界で多くの導入事例があり信頼性が高い。
 2. 音質がよい。伝統の“STUDER SOUND”。



■ 卓左側にリモートベイを設置できるレイアウト



■ 右フロントタイヤ後方にリモートベイを格納



■ 整然とまとめられたラックエリア



■ 広く快適な前室エリアは多目的に使用可能

3. 中継車内と言う限られたスペースに収まるコンパクトさ (EIA40U ラック 1 本) である。

4. 低消費電力である。

と言う理由からです。さらに、不測の事態に備え制御用PCの2重化オプションが用意されていると言う理由から、VISTAシリーズの中でもVISTA 8を採用しました。Config Toolによる設定ファイルを使い分けることにより、用途にあった仕様に変更できる点も選定理由のひとつです。207号車では、ステレオ制作とサラウンド制作で、それぞれの用途にあったチューニングを施しています。

運用を開始して・・・

初稼動から今日までほとんどトラブルもなく・・・と書くあたりで面白みがありませんね！？

正直なところ、特定の回線にノイズが乗るといった細かなトラブルには何回か見舞われました。どんなに信頼性が高くとも機械である以上、いつかは壊れるものです。ましてや新規のシステムですから初期不良の可能性もゼロではありません。それら負の要素を想定し、バックアップを含むシステムを構築することを忘れてはいけません。幸い、スチューダー・ジャパン技術陣の迅速かつ、きめ細やかな対応により、生じたトラブルは速やかに解決されました。音声卓そのものの信頼性もちろんですが、稼動後にどれだけ手厚いサポートが得られるかが、実のところ一番重要であり、それこそが本当の意味での「信頼性」なのだと思います。207号車はスタジオ設備とは違い、ひとつの場所に留まってはいません。

サポートする側は大変な苦勞だと思えますが、対応一つ一つの積み重ねが、結果として全世界で多くの導入事例を持つ原資なのだと思います。

最後に

Viconicsの操作性、音質の良さにおいて不満はありません。初期トラブルも峠を越え、安定域に達した207号車は、「24時間テレビ」と言う夏の大イベントを難なくこなしてくれました。冬の大イベント「FIFA Club World Cup」では、日本テレビがホスト局を務めます。日本テレビの放送はもちろん、全世界160を超える国と地域に向けて、国際信号を配信するという“大役”を担いますが、難なくこなしてくれることでしょう。